

学びの変化と新しい教育・学習支援技術論文特集の発行にあたって

学びの変化と新しい教育・学習支援技術論文特集編集委員会

委員長 松原 行宏



本特集は、本学会教育工学研究会の発足50周年を記念する活動の一環として企画された。この半世紀、電子情報通信技術の進歩・普及は目覚ましく、教育・学習を取り巻く環境も、グローバル社会を見据え、教科ごとの基礎知識から思考力や表現力等へとシフトしつつある。こうした技術の発展と教育・学習観の変化に伴い、教育・学習支援研究が取り組むべき課題も変化してきている。

本特集のテーマである「学びの変化と新しい教育・学習支援技術」は、こうした時代の要請下で、教育や学習を通じて変化・成長するヒト（学習者や教授者）を含めた系を対象とする研究に対する社会の期待に応えることが目的である。上記の背景に照らして、本特集では、投稿時のCFPに下記のような研究分野を具体的に掲げた。

知的学習支援、協調学習、コミュニティ形成、コミュニケーション支援、メタ認知、知識共創、学習評価、eポートフォリオ、eテストング、データサイエンス、スマートデバイス、語学学習、アクティブラーニング、反転授業、スキル学習、プログラミング教育、遠隔教育、オープンエデュケーション、eラーニング標準化、Learning Analytics、教育情報検索、電子教科書、オーサリング支援、オントロ

ジー、ロボティクス、仮想/拡張現実感

本特集は、全投稿数45編（論文37編、レター8編）、採択論文数20編（論文16編、レター4編）で採択率44.4%（論文43.2%、レター50.0%）と、通常の和文D論文誌とほぼ同等の採択率であった。順調に本特集が発行できたのは、編集委員の先生方の多大なご協力があったからこそである。本特集の編集委員会は、「学びの変化と新しい教育・学習支援技術特集」の名のとおり、委員長を含む幹事団4名の他、新しい教育・学習支援技術に精通した先生方28名の総数32名で構成した。ここに感謝の意を表したい。

これからの新しい教育・学習を支えるシステムの開発・実践・評価に対する社会的期待は今後ますます大きくなると思われる。本特集がその期待に応える第一歩となることを編集委員一同、心より願っている。

まつばら せきひろ
松原 行宏（正員：シニア会員） 昭63広島大・工・第二類（電気系）卒。平元同大学院博士課程前期了。同年広島大助手、平10香川大助教授を経て、平15広島市立大教授、現在に至る。平9、12-13英Nottingham大学客員研究員。知識工学、教育工学の研究に従事。博（工学）。平22シニア会員、平27-28本学会教育工学研究専門委員長。教育システム情報学会理事、学会誌副編集委員長。

